

西教委社教発第 56 号  
平成 24 年(2012 年) 7 月 20 日

西宮市社会教育委員会議  
議長 赤尾 勝己 様

西宮市教育委員会  
教育委員長 井ノ元 由紀子

新しい時代に対応した生涯学習推進の拠点としての今後の図書館のあり方  
について(諮問)

本市の図書館は、中核市の中でも貸出冊数や予約件数、図書資料の回転率はトップクラスの実績ですが、今後は、その実績を保ちながらも、今日の国際化、科学技術の進歩、情報化の急速な進展や少子高齢化、学習者の多様なニーズなど新しい時代に対応した生涯学習推進の拠点としての図書館の役割を充実させることが必要となっています。

平成 18 年 3 月、文部科学省「これからの図書館の在り方検討協力者会議」により報告された「これからの図書館像」では、図書館に対して「地域をささえる情報拠点をめざして、地域や住民にとって役に立つ図書館として存在意義を確立」することを求めています。

新しい時代に対応し、地域や住民に役立つ図書館となるためには、図書館に市民の様々な経験、知識、特技を活かしていただくボランティアの参加を呼びかける。また、そのボランティア活動の中で培った新たなものを他者や自身の生涯学習に役立ててもらい仕組みをつくり、地域の課題解決に役立ち、地域をささえる生涯学習推進の拠点としての役割強化を図ることが必要であると考えます。

こうした点を踏まえて、今年度は市民の生涯学習の成果を発揮する場として、また、図書館サービスの充実を目的として、市民の視点に立ったイベントの企画・運営なども担うことのできる「図書館友の会」の設立を視野に入れ、市民参画の場づくりを目指すほか、「学校図書館との連携強化」などの新サービスにも取り組むことにしております。

つきましては、新しい時代に対応した生涯学習推進の拠点としての今後の図書館のあり方について、1 点目は「図書館運営における市民参画と協働」について、2 点目は「学校図書館との連携強化」のあり方について諮問いたします。